



# OpenFOAMの MPI+OpenMP+GPGPUに よる高速計算

株式会社 EQN

松村 茂

2014.11.14

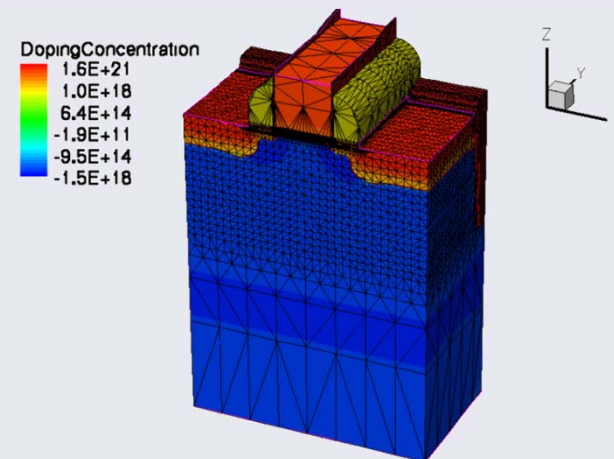
# 紹介

## 株式会社EQN

代表取締役 松村 茂

主に半導体シミュレーション(プロセス・デバイス)関係

- 物理モデル
- 線形ソルバー
- Delaunayメッシュ
- 形状
- etc...





# 目次

1. 並列化・線形ソルバー基礎
2. OpenFOAMへの導入
3. ベンチマーク結果



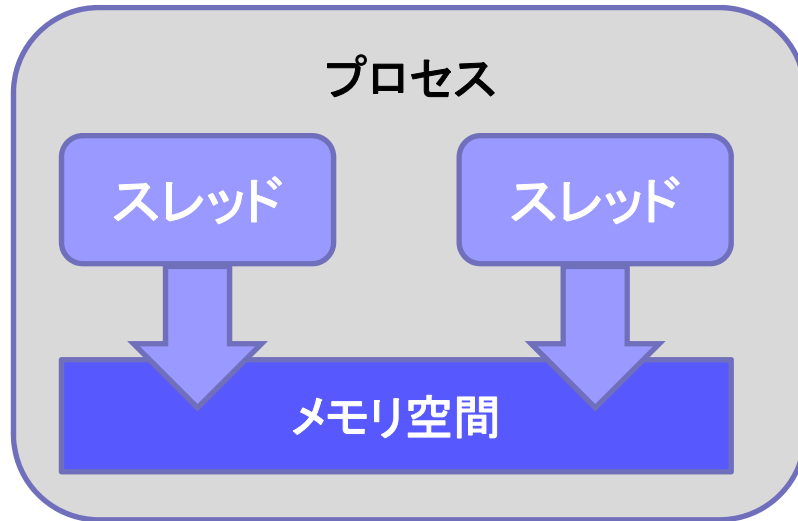
# 目次

1. 並列化・線形ソルバー基礎
2. OpenFOAMへの導入
3. ベンチマーク結果

# 並列化・線形ソルバー基礎

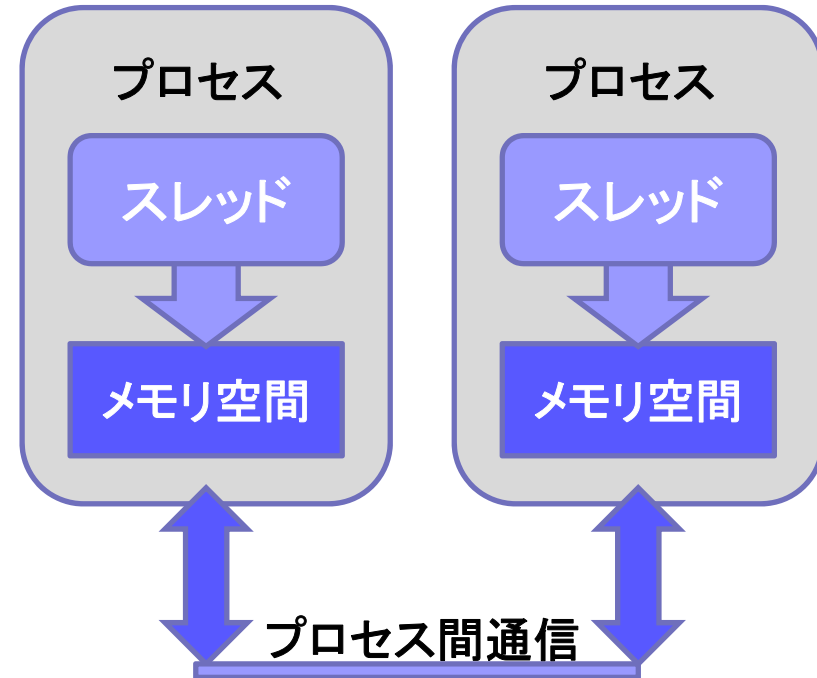
## ■ メモリの取り扱いから見た並列化の種類

共有メモリ型並列



- OpenMPやpthread等
- 一般にノード内での並列化

分散メモリ型並列

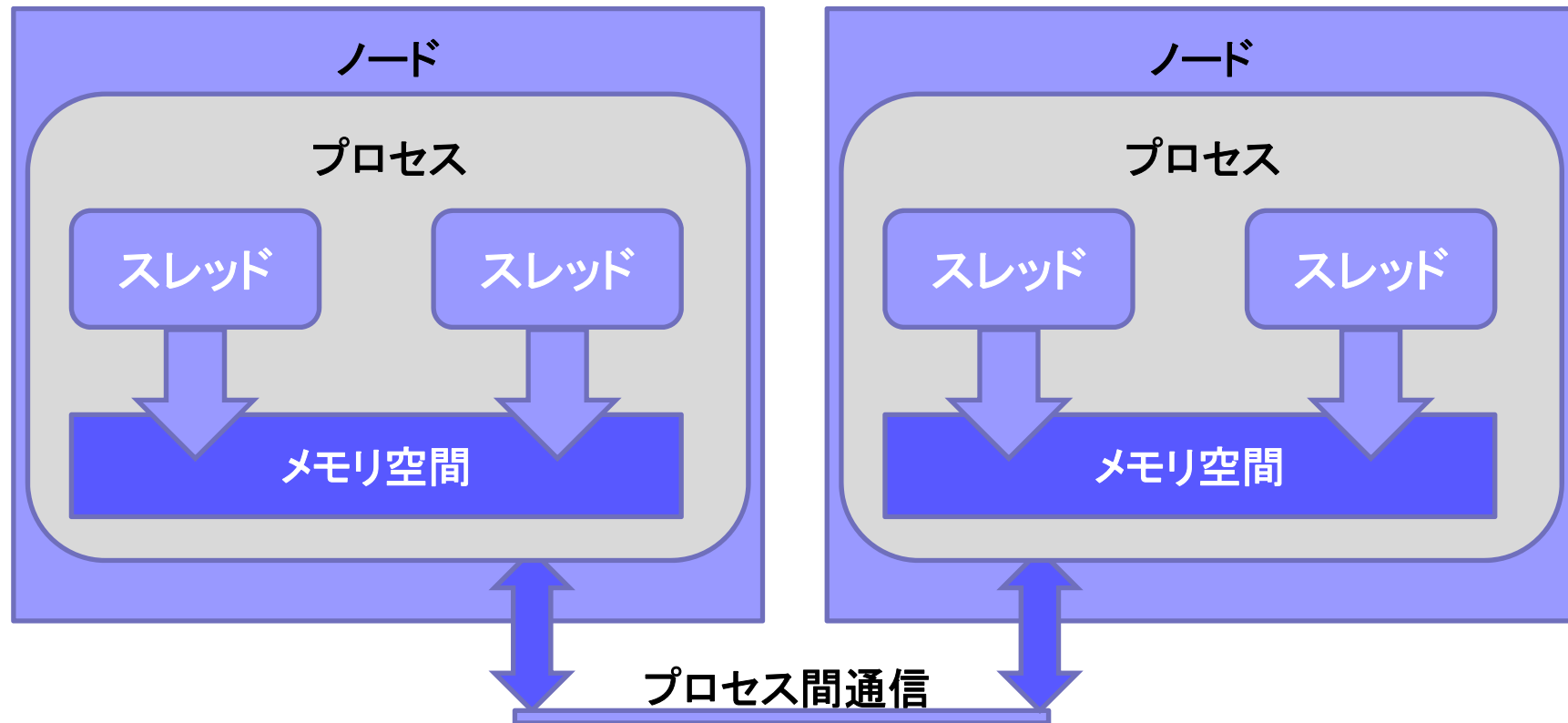


- MPIやPVM等
- 一般に複数ノードでの並列化
- **OpenFOAMが採用**

# 並列化・線形ソルバー基礎

## ■ メモリの取り扱いから見た並列化の種類

### ハイブリッド型並列



- ノード内または複数ノードにおいて共有メモリ型、分散メモリ型並列を使う
- 今回の計算で採用

# 並列化・線形ソルバー基礎

## ■ プログラムから見た並列化技術

MPI

- 分散メモリ型並列
- **OpenFOAMが採用**

OpenMP

- 共有メモリ型並列

CUDA

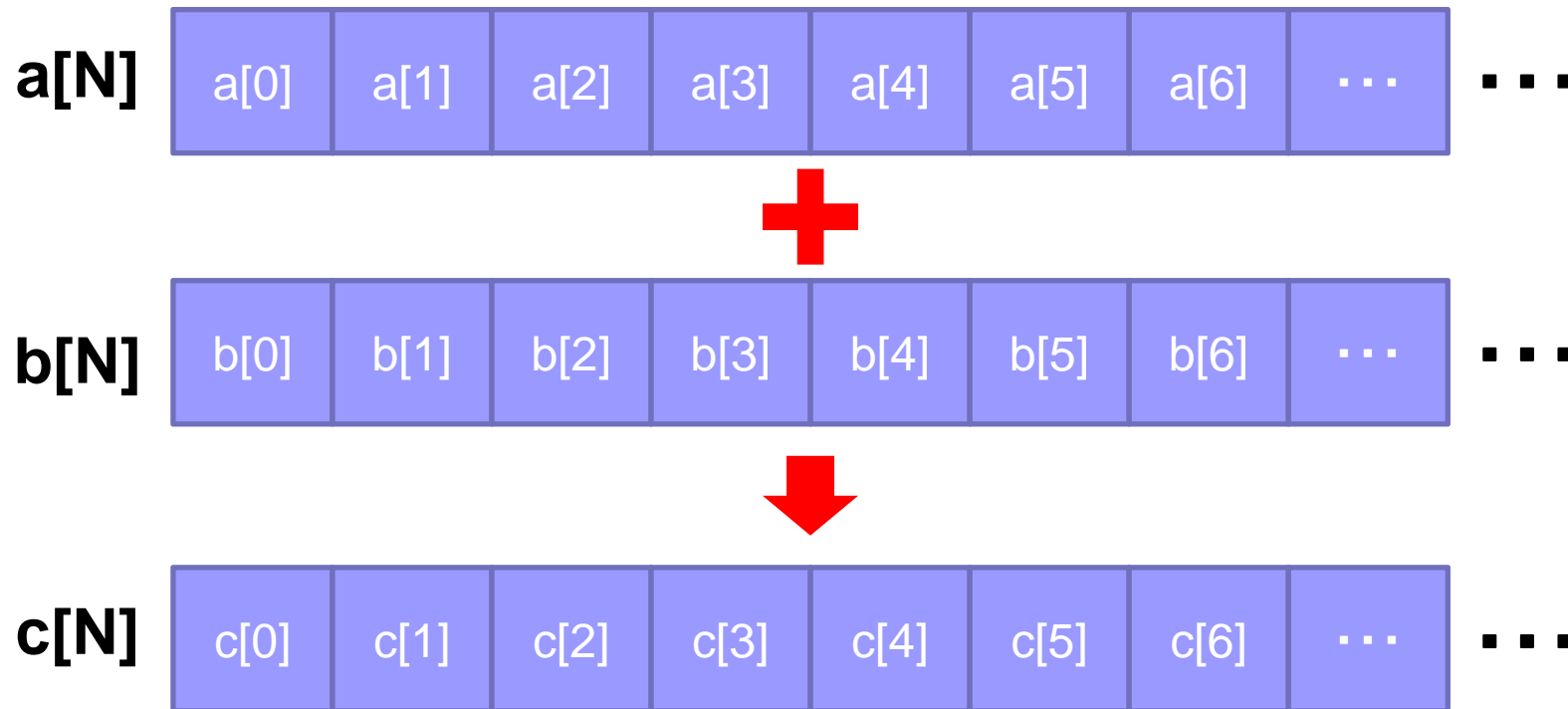
- GPU上で並列計算を実行

**今回の計算に採用**

# 並列化・線形ソルバー基礎

## ■ プログラムから見た並列化技術の例

### ベクトル和の計算の例





# 並列化・線形ソルバー基礎

## ■ 各手法によるベクトル和の計算の違い

```
void add( int *a, int *b, int *c ) {  
    for ( int tid = 0; tid < N; tid++ ) {  
        c[tid] = a[tid] + b[tid];  
    }  
}
```

シングルCPU

c配列=a配列+b配列

```
void add( int *a, int *b, int *c ) {  
    #pragma omp parallel for  
    for ( int tid = 0; tid < N; tid++ ) {  
        c[tid] = a[tid] + b[tid];  
    }  
}
```

OpenMP

このループがCPU数に  
同時に展開される

```
__global__ void add( int *a, int *b, int *c) {  
    int tid = threadIdx.x + blockIdx.x * blockDim.x;  
    for( ; tid < N; tid += blockDim.x * gridDim.x ) {  
        c[tid] = a[tid] + b[tid];  
    }  
}
```

CUDA

この関数がGPUコアに  
同時に展開される

# 並列化・線形ソルバー基礎

線形行列ソルバーとは

$$A \times \vec{x} = \vec{b} \quad (A \text{は行列})$$

- Aと $\vec{b}$ が既知の時 $\vec{x}$ を計算する。
- 陰解法を用いるシミュレーターはこれに依存する。
- 計算時間のほとんど全てがこの計算に消費される。

行列の種類

## 密行列

- 行列全体のほとんどが0以外の要素からなる。

## 疎行列

- 行列要素のほとんどが0からなる。
- 隣接する要素間の関係のみ必要とする計算行列は疎行列
- **OpenFOAMの流体・構造計算は疎行列計算**

# 並列化・線形ソルバー基礎

## ■ 線形行列ソルバーの種類

### 直接法(LU分解)

- 必ず何らかの解が得られる。
- 精度は保証されない。
- メモリ量 $O(n^2)$  (密行列)
- 計算時間 $O(n^3)$  (密行列)  
行列サイズ $n=1$ 万(1万 $\times$ 1万の行列)の計算に1秒かかる場合 $n=1$ 億を計算するのに3万年以上かかる。

⇒ 大規模計算に向かない

### 反復法

- 発散等、解が得られる保証がない。
- 解の精度は保証される。
- 膨大なアルゴリズムがある。  
CG、BiCG、BiCGStab、GMRES、AMG...等。  
⇒ **OpenFOAMではCG, BiCG, GAMGなど採用**
- 前処理を用いて収束性を上げる。  
ヤコビ、SOR、IC、ILU前処理等  
⇒ **OpenFOAMではDILU, DICなど採用**(簡易的に対角のみILU, ICを計算する手法)



# 目次

1. 並列化・線形ソルバー基礎
2. OpenFOAMへの導入
3. ベンチマーク結果

# OpenFOAMへの導入

## TESTsolver.H ヘッダーファイル

```
namespace Foam
{
class TESTsolver : public lduMatrix::solver
{
    TESTsolver(const TESTsolver&);
    void operator=(const TESTsolver&);
public:
    TypeName("TESTsolver");

    TESTsolver (
        const word& fname,
        const lduMatrix& mtx,
        const FieldField<Field, scalar>& ifBC,
        const FieldField<Field, scalar>& ifIC,
        const lduInterfaceFieldPtrsList& iface,
        const dictionary& ctrl
    );
    virtual ~TESTsolver(){}
    virtual solverPerformance solve ( scalarField& x,
        const scalarField& b, const direction cmpt=0 ) const;
};
}
```

驚くほど簡単に実装可能！

ソルバ名定義

コンストラクタ

デストラクタ

**solve**関数

# OpenFOAMへの導入

## TESTsolver.C ソースコード(その1)

```
namespace Foam
{
    defineTypeNameAndDebug(TESTsolver, 0);

    lduMatrix::solver::add $asym$ MatrixConstructorToTable<TESTsolver>
        addTESTsolver $Asym$ MatrixConstructorToTable_;
    lduMatrix::solver::add $sym$ MatrixConstructorToTable<TESTsolver>
        addTESTsolver $Sym$ MatrixConstructorToTable_;
}
```

**非対称行列対応の場合**

**対称行列対応の場合**

両方書くと対称行列、非対称行列両方対応のソルバーとして認識される。

# OpenFOAMへの導入

## TESTsolver.C ソースコード(その2)

```
Foam::TESTsolver::TESTsolver (  
    const word& fname,  
    const lduMatrix& mtx,  
    const FieldField<Field, scalar>& ifBC, コンストラクタ  
    const FieldField<Field, scalar>& ifIC,  
    const lduInterfaceFieldPtrsList& iface,  
    const dictionary& ctrl  
): lduMatrix::solver ( fname, mtx, ifBC, ifIC, iface,ctrl ) {} 中身なしでもOK  
  
Foam::solverPerformance Foam::TESTsolver::solve (  
    scalarField& x, const scalarField& b, const direction cmpt) const  
{  
    solverPerformance solverPerf ( typeName, fieldName_ );  
  
    // ここに何かソルバーのコードを書く solve関数  
    // A・x = b を解く  
    //  
  
    return solverPerf;  
}
```

# OpenFOAMへの導入

## 線形ソルバーの例

### PCG(Preconditioned Conjugate Gradient)

```

r0 := b - Ax0
z0 := M-1r0
p0 := z0
k := 0
repeat
  αk :=  $\frac{\mathbf{r}_k^T \mathbf{z}_k}{\mathbf{p}_k^T \mathbf{A} \mathbf{p}_k}$ 
  xk+1 := xk + αk pk
  rk+1 := rk - αk A pk
  if rk+1 is sufficiently small then exit loop end if
  zk+1 := M-1rk+1
  βk :=  $\frac{\mathbf{z}_{k+1}^T \mathbf{r}_{k+1}}{\mathbf{z}_k^T \mathbf{r}_k}$ 
  pk+1 := zk+1 + βk pk
  k := k + 1
end repeat
The result is xk+1

```

行列・ベクトル積計算

前処理計算

計算コスト ≒ 高速化の余地  
行列ベクトル積・前処理 > 内積 > ベクトル加減・定数倍  
特にILU前処理などは高コスト





# OpenFOAMへの導入

## 使い方

1. ソルバーディレクトリのMake/filesに  
**TESTsolver.C**  
を記述してwmake
2. caseディレクトリのsystem/fvSolutionから  
**solver TESTsolver;**  
が選択可能になっている！

# OpenFOAMへの導入

## ■ 疎行列格納フォーマットの例

$$\begin{bmatrix} 1 & 2 & 0 & 0 \\ 0 & 3 & 4 & 0 \\ 0 & 0 & 5 & 0 \\ 0 & 0 & 6 & 7 \end{bmatrix}$$

### CSR

ia	1	3	5	6	8		
ja	1	2	2	3	3	3	4
val	1	2	3	4	5	6	7

iaは左上から非零要素を数えた時  
各行の左端の要素が何番目かを  
表す。

### COO

ia	1	1	2	2	3	4	4
ja	1	2	2	3	3	3	4
val	1	2	3	4	5	6	7

ia、jaがそれぞれの要素の行・列  
の座標を表す。valは要素値。

# OpenFOAMへの導入

## ■ 疎行列格納フォーマットの例

1	2
3	4

メッシュ構造と要素番号

$$\begin{bmatrix} 1 & 2 & 3 & 0 \\ 4 & 5 & 0 & 6 \\ 7 & 0 & 8 & 9 \\ 0 & 10 & 11 & 12 \end{bmatrix}$$

## OpenFOAM内部形式

upper	2	3	6	9
lower	4	7	10	11
diag	1	5	8	12
lowerAddr	1	1	2	3
upperAddr	2	3	4	4

- upper, lower, diagはそれぞれ上三角、下三角、対角の行列要素。
- lowerAddr, upperAddrはそれぞれメッシュ構造の面番号における、隣接要素の要素番号。
- 対角対称構造のみ表現可能。



# 目次

1. 並列化・線形ソルバー基礎
2. OpenFOAMへの導入
3. ベンチマーク結果

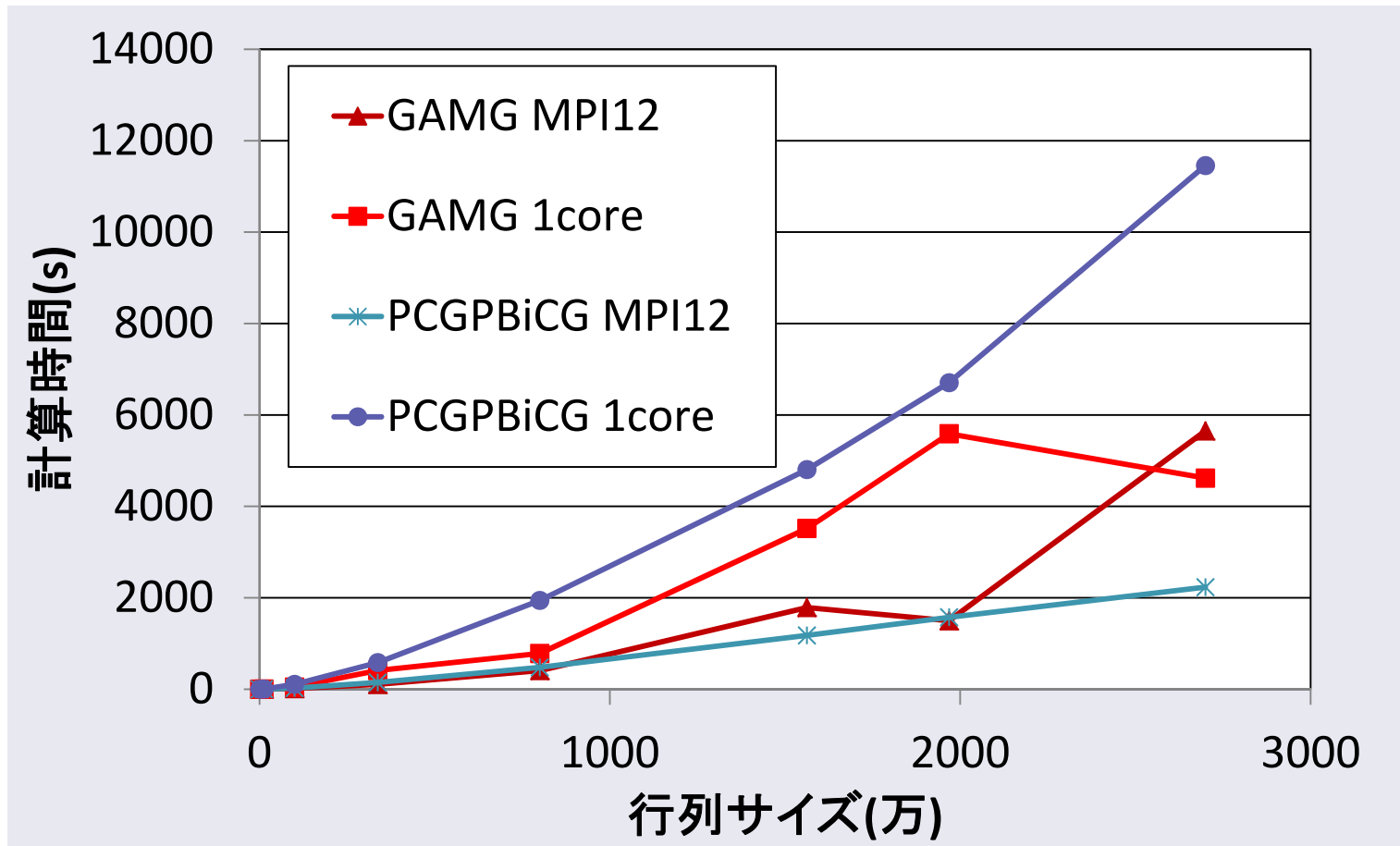
# ベンチマーク結果

## ベンチマーク条件

項目	
CPU	Intel Xeon E5-2650 2.0GHz
GPU	NVIDIA GeForce GTX Titan
OS	CentOS 6.5
CUDA	CUDA Ver 6.5
OpenFOAM	OpenFOAM-2.3.0
Case	incompressible/icoFoam/cavity
Ref. Solver	p: DIC-PCG U: DILU-PBiCG
変更点	領域を(0,0,0)-(1,1,1)の立方体に deltaT 1e-7 endTime 5e-7
GPU計算方式	全て倍精度
計測時間	全て線形ソルバーのみの計算時間



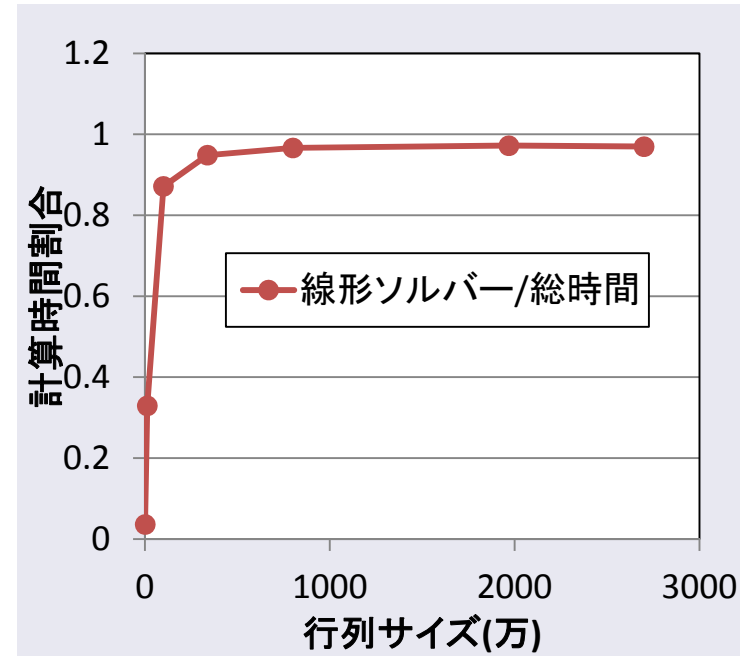
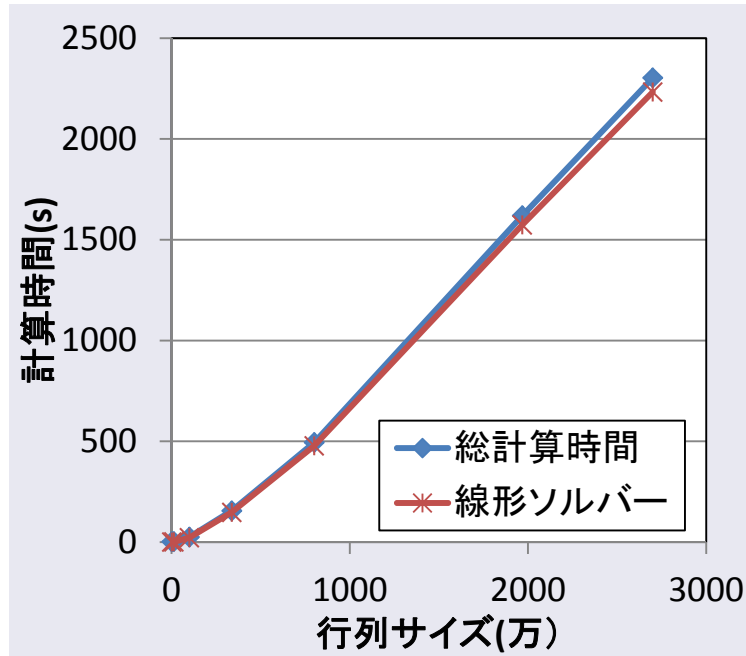
# ベンチマーク結果



## リファレンスソルバー計算時間

GAMGはサイズによって計算時間に振動や1コアとの逆転があるため  
今回のリファレンスにはPCG,PBiCGソルバーを用いる

# ベンチマーク結果

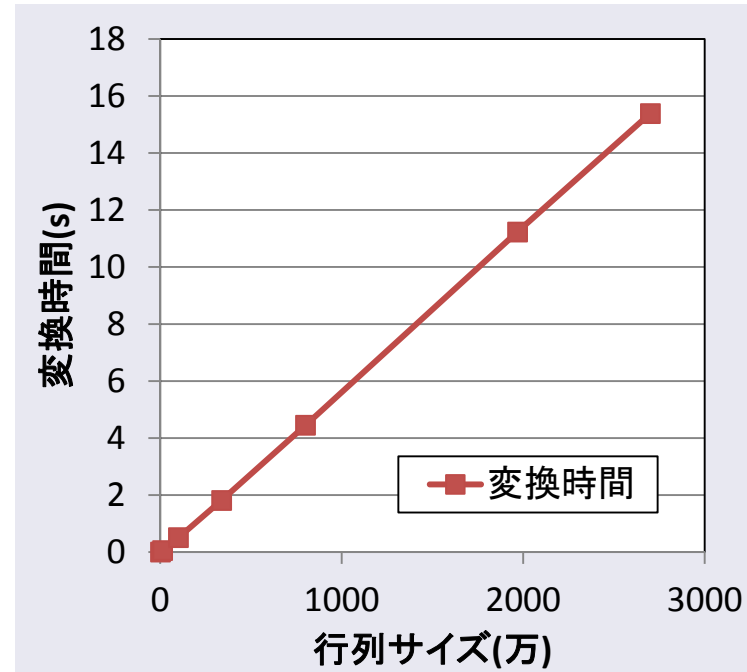
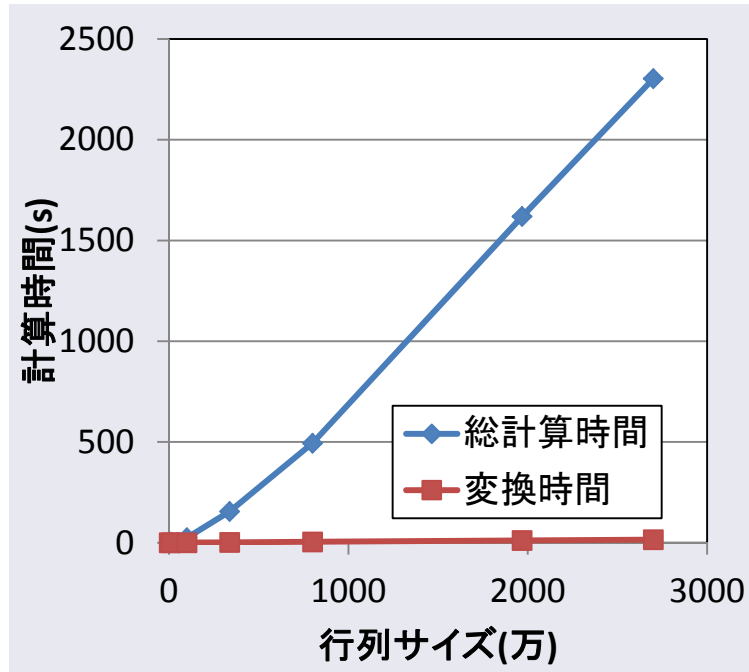


線形ソルバー計算時間割合  
(PCG,PBiCG MPI12計算)

ファイルアクセス等含む総計算時間に占める  
線形ソルバーの計算時間は95%以上

➡線形ソルバーさえ高速化されればOK

# ベンチマーク結果



CSRフォーマットへの計算時間  
(PCG,PBiCG MPI12計算)

OpenFOAM形式からCSR形式への変換時間は  
ファイルアクセス等含む総計算時間のうちの1%未満程度

**➡ 線形ソルバーが高速化しやすい形式を選択すればOK**



# ベンチマーク結果

## EQNソルバーシステム概要

## OpenMP並列化

MPI並列化



+



倍精度演算性能  
1.7T Flops



+



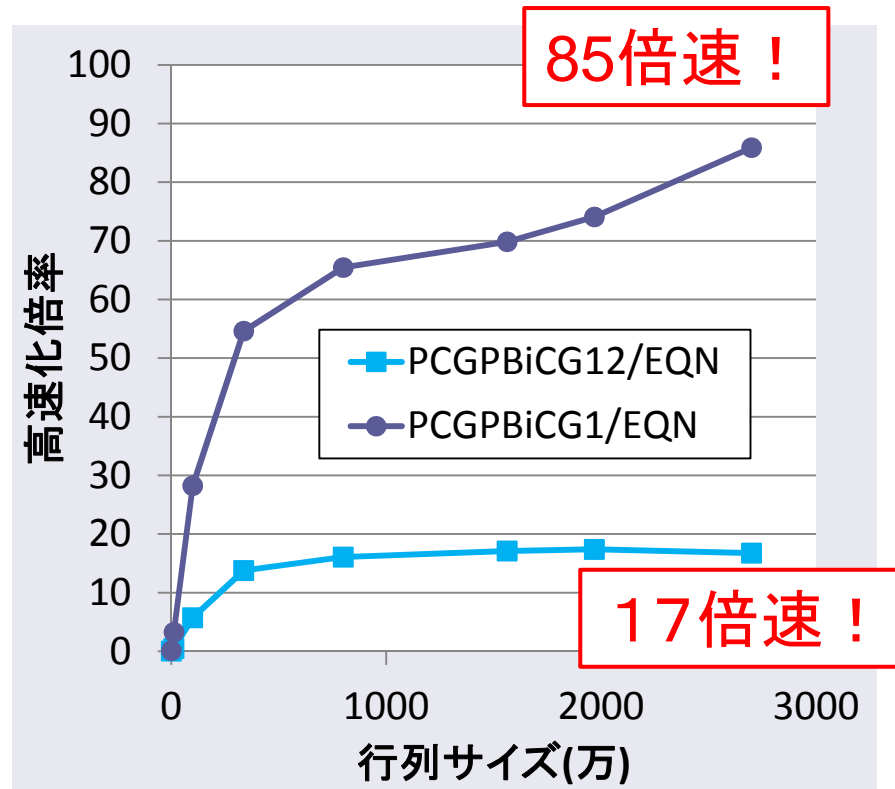
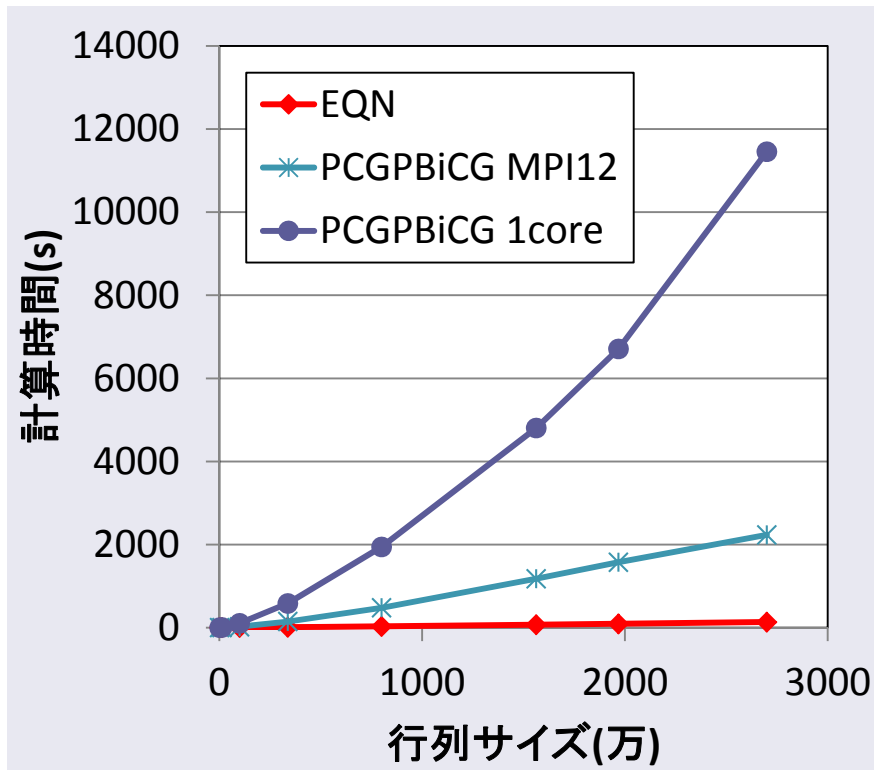
+



GTX Titan

Xeon 4 Core

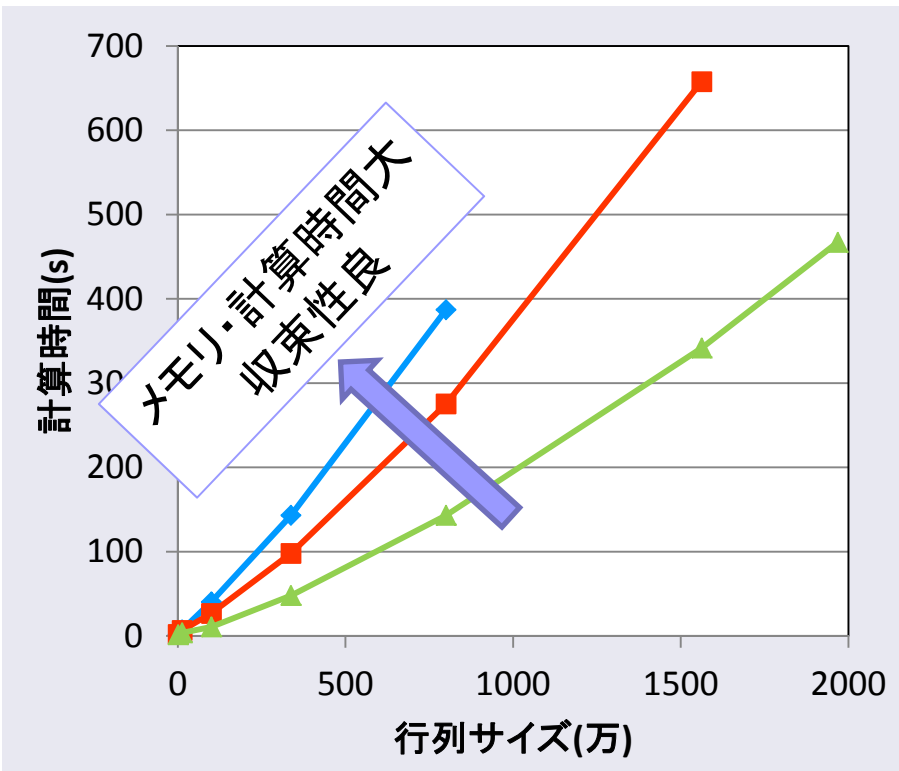
# ベンチマーク結果



MPI+OpenMP+GPGPUソルバー高速化倍率

# ベンチマーク結果

ILU(不完全LU分解)の  
さまざまな並列化組み合わせ



ハイブリッド並列化により  
色々な並列化の組み合わせで  
リソースと収束性のトレードオフを  
探ることができる

BiCG系の計算を1GPU  
ILUの計算を1GPU

BiCG計算の  
GPUへの割り当て

ILU計算の  
GPUへの割り当て

BiCG系の計算を1GPU  
ILUの計算を3GPU+12Core

BiCG計算の  
GPUへの割り当て

ILU計算の  
割り当て  
ブロック分解し  
GPU,CPUを  
ロードバランス

BiCG系の計算を3GPU  
ILUの計算を3GPU

BiCG計算の  
GPUへの割り当て

ILU計算の  
GPUへの割り当て

行列の計算部分割り当てイメージ

# ベンチマーク結果

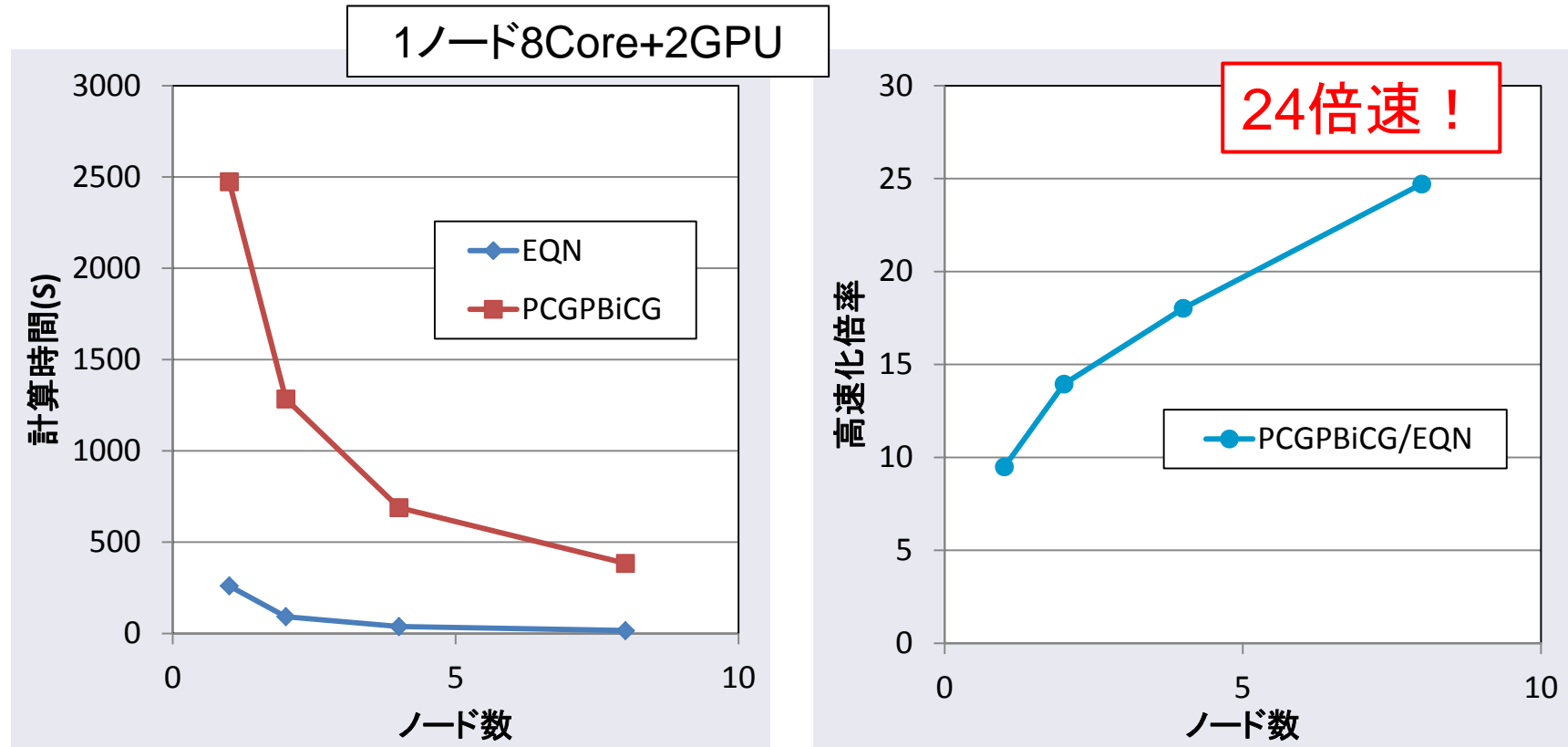
## Amazon EC2 GPGPUクラスタースペック一覧



インスタンスタイプ	g2.2xlarge	cg1.4xlarge
CPU	Xeon E5-2670	Xeon X5570 ⇒今回採用
メモリ	15GiB	22.5GiB
ECUs	26	33.5
vCPUs	8	16
イーサネット I/O	高い	非常に高い(10Gbps)
GPU	Grid K520*1	Tesla M2050*2
GDDR5	4096 MB	2687 Mb
CUDA Core	1536	448
GPU Clock	797 MHz	1147 MHz
Memory Clock	2.5 GHz	1546 MHz
単精度演算性能x1	1128 GFlops	585 GFlops
単精度演算性能x2		1155 GFlops
倍精度演算性能x1	<b>83 GFlops</b>	286 GFlops
倍精度演算性能x2		<b>585 GFlops</b>
料金(Virginia, RHEL)	<b>\$0.780 / 1時間</b>	<b>\$2.230/ 1時間</b>

nbodyベンチ  
実測

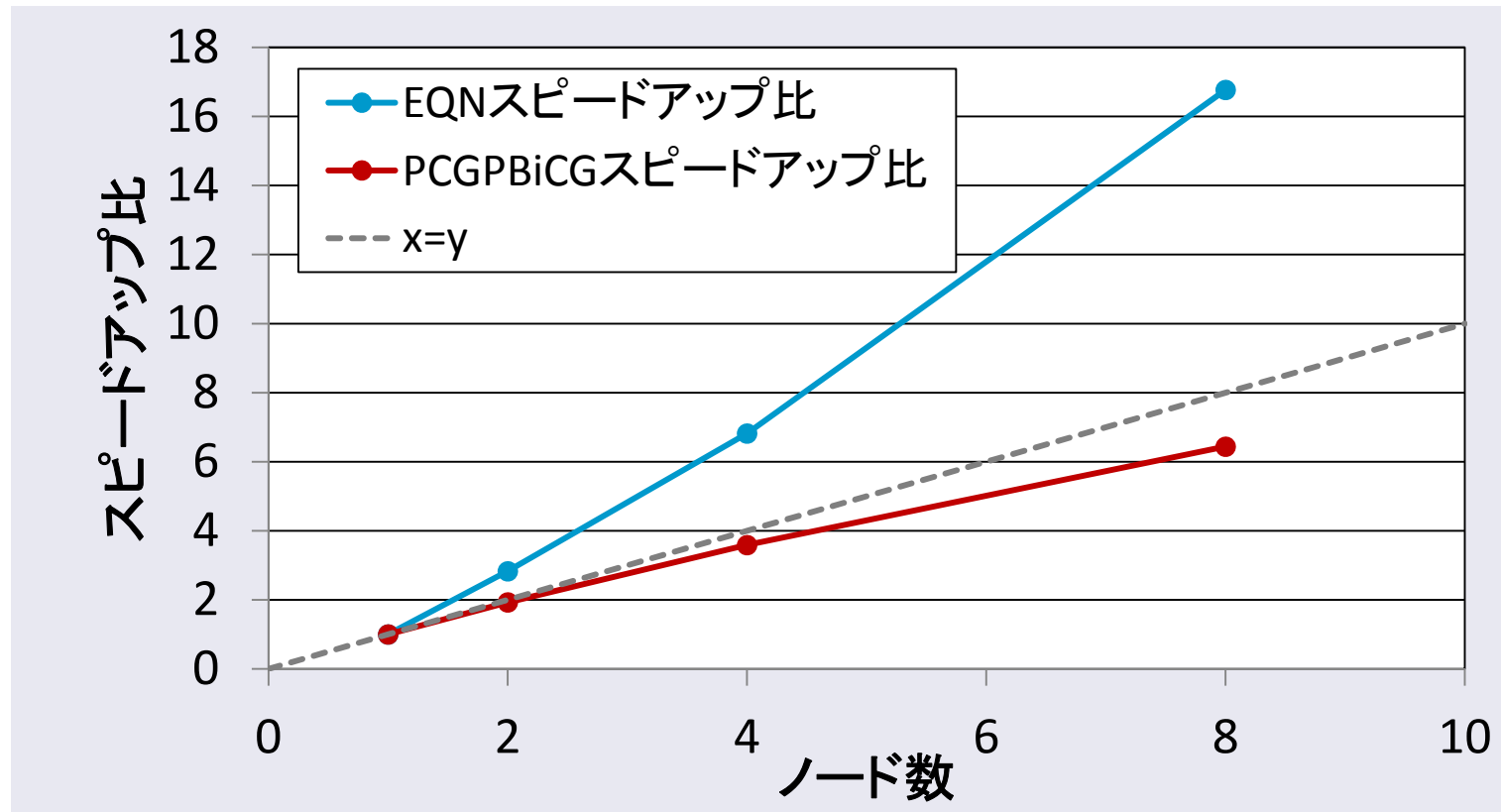
# ベンチマーク結果



ハイブリッドソルバー高速化倍率(1500万メッシュ計算)

8ノード(64CPU Core)のPCG,PBiCG MPI計算に対して  
8ノード(16GPU+64CPU Core) ハイブリッド並列化ソルバーが**24倍速**

# ベンチマーク結果



スピードアップ比の比較(1500万メッシュ計算)

スピードアップ比 = 1ノード計算時間 / Nノード計算時間



## まとめ

- OpenFOAMでの線形行列ソルバーの差し替えは容易
- 行列形式の変換は低コスト
- ハイブリッド並列の分解手法は問題に合わせてさまざまに変更可能
- GPGPUを組み合わせたハイブリッド並列化は**極めて効果的**